

トピックス

1. ICV2011 Sapporo に向けて

永田 恭介(委員長), 岩本 愛吉, 俣野 哲朗, 小池 智, 上田 一郎

ウイルスディビジョン国内プログラム委員会

1984年9月1-7日に仙台で開催された International Congress of Virology (ICV, 国際ウイルス学会議) が四半世紀の時を経て (図参照), 来年9月 (2011年9月11-16日), 札幌に戻ってきます (以降, ICV2011 Sapporo). 筆者の一人には, 懐かしい会議です. 当時, 米国で研究生活を送っていましたが, 一時帰国を兼ねて, ICVに初めて参加した時でもあります. 以来, エドモントン (1987年), ベルリン (1990年=1989年11月10日がいわゆる「ベルリンの壁崩壊」の翌年), グラスゴー (1993年), エルサレム (1996年), シドニー (1999年), パリ (2002年), サンフランシスコ (2005年), イスタンブール (2008年), と参加してきました (図参照). いろいろな土地で, 様々な研究者と, ウイルス学のその時代のトレンドについて語り合う機会に恵まれてきました. とても, 幸せな経験です.

ところが, この会議のことがよくわかりません. 今回, よく分からぬまま, 我々は, ICV2011 Sapporo の National Programming Committee のメンバーとなってしまいました. それでも, 大義も名分も理解しているはずでしたが, プログラム委員として活動し始めてからも, この会議の運営のされ方に分からないところがあります. 先に述べた仙台での会議も, どういうわけか, 日本ウイルス学会とは無関係に運営されていたと言われていています (ウイルス, 53, 59-61, 2003). (以下の会話体の部分は, 本年9月21日に, 東京で開催された第2回国内プログラム委員会の座談会からの抜粋です. ちなみに, 第1回国内プログラム委員会は, 札幌で, 2月26-28日に開催され, 会場の視察を終え, ICV2011 Sapporo のバンケット会場の手配もいたしました)

連絡先

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学大学院人間総合科学研究科
TEL: 029-853-3233
FAX: 029-853-3233
E-mail: knagata@md.tsukuba.ac.jp

K: 「ICVって, どこのイニシアティブで開催されているのか, わからないなあ」

C: 「ICVは, International Union of Microbiological Societies (IUMS) で活動する3つのディビジョンの中の Virology Division が主体となって開催される国際会議です。」

U: 「3つのディビジョンって?」

C: 「まずは, <http://www.iums.org/about/organization.html> を訪れてみてください. 札幌でも, ICV2011 Sapporo の前の週には, Bacteriology & Applied Microbiology と Mycology の会議があります」

I: 「IUMS なんて馴染みがないけど」

C: 「なにをおっしゃいます. Executive Board (2008-2011) のメンバーの中には, IUMS の Vice President として永井美之先生が, また Virology Division には Vice Chair として河岡義裕先生がいらっしゃいます. ちなみに, Virology Division の頭は, Dr. Robert A. Lamb 大先生です。」

M: 「ふーんむ. で, ICV の運営というか, 指令系統はどうなっているのかなあ」

C: 「IUMS との繋ぎ役は, 永井先生です. 大枠を決めるというか, そして, ICV のトップは Lamb 先生です。」

N: 「で, ICV2011 Sapporo の具体的なことを教えてください」

C: 「IUMS に対応して, 日本で3つのディビジョンの会議を行うために, その組織と代表がいらっしゃいます. 3つのディビジョンをまとめた National Organizing Committee, つまり国内組織委員会があり, そのヘッドは富田房男先生です. ウイルス領域の人ではありませんが, 委員会にも日本ウイルス学会の先生方もいらっしゃいます. たとえば, 組織全体のつなぎ役として野本明男先生.」

I: 「それらの下で, 現場を意識して働くのがウイルスディビジョンの National Programming Committee (国内プログラム委員会) ということですね。」

C: 「はい。」

N/I/M/K/I: 「なんだか, 段階が多すぎて, 大変だなあ. いっそのこと, ICV 単独開催にすれば良いのでは??」

International Congress of Virology

1968	Helsinki	1990	Berlin
1971	Budapest	1993	Glasgow
1975	Madrid	1999	Jerusalem
1978	The Hague	1999	Sydney
1981	Strasbourg	2002	Paris
1984	Sendai	2005	San Francisco
1987	Edmonton	2008	Istanbul

2011年9月11-16日に札幌で開催されるICV2011 Sapporoは、15回目のICVです。ICVは、IUMSが主催する3つの国際会議を先導するかたちで最初に産声をあげた国際会議です。他の2つの会議と同時に開催されるようになったのは1996年のエルサレムでの会議以降のことです。ICV2011 Sapporoのお世話は日本ウイルス学会関係者を主体に進められていますが、日本ウイルス学会がICVの対応学会と決まっているわけではないので、この会議はひろくウイルス学に関わる研究者に開かれたものです。日本ウイルス学会は、ボランティア的な立場ではありますが、日本のウイルス学を背負う学会の自負を持って臨みたいと思いませんか。

ICVは、常にウイルス学研究の重要な情報交換の場として機能してきました。本会議で発表される演題は、印刷中を含めて、その後間もなく論文として再会せざるを得ないものばかりであったと感じています。ICV2011 Sapporoでは、3名のノーベル賞受賞ウイルス研究者をお招きするこ

International Congress of Bacteriology & Applied Microbiology and Mycology Congress

1973	Jerusalem	1994	Prague
1974	Tokyo	1996	Jerusalem
1978	Munich	1999	Sydney
1982	Boston	2002	Paris
1986	Manchester	2005	San Francisco
1990	Osaka	2008	Istanbul

とになっています。加えて、システムウイルス学、ポストゲノム時代のウイルス学などと銘打った12のプレナリー講演と75を超えるシンポジウムを企画し、あらゆる点で旧来の境界や範疇を超えつつあるウイルス疾患とウイルス学について、先端的なディスカッションができるような共鳴場を提供できるように工夫をこらしているところです。

申し上げなければならない大切なことを忘れていました。ICV2011 Sapporoは、当該年度の日本ウイルス学会の学術集会（会長は河岡義裕先生）を兼ねています。奮ってご参加ください。もう一つ忘れていました。ICV2011 Sapporoについては、ホームページ（<http://www.congre.co.jp/iums2011sapporo/data/general.html>）も出来上がっていて、演題募集ももうすぐ始まります（2010年12月15日から始まり、締切りは2011年2月末日です）。澄んだ北の大地の雰囲気の中で、活発な議論が展開されることを切に期待しています。